

**令和3年度実施  
選択的評価事項に係る評価  
評価報告書**

神戸市立工業高等専門学校

令和4年3月

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

## 目 次

|   |   |
|---|---|
| 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した選択的評価事項に係る評価について…………… | i |
| I 選択的評価事項に係る評価結果……………                         | 1 |
| II 選択的評価事項ごとの評価……………                          | 2 |
| 選択的評価事項A 研究活動の状況……………                         | 2 |
| 選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況……………                      | 4 |
| <参 考>……………                                    | 5 |
| i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）……………       | 6 |
| ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）……………          | 7 |

|  |
|--|
| 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した選択的評価事項に係る評価について |
|--|

## 1 評価の目的

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）の実施する認証評価は、高等専門学校  
の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況を評価  
するものですが、高等専門学校にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さら  
に高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面  
にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われてい  
ます。

そこで機構では、「評価結果を高等専門学校にフィードバックすることにより、高等専門学校の教育  
研究活動等の改善・向上に役立てること」、「高等専門学校の教育研究活動等の状況を社会に示すこと  
により、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと」という評価の目的に鑑み、各高  
等専門学校の個性の伸長に資するよう、高等専門学校評価基準とは別に、高等専門学校の多様な活動状  
況を評価するため、「研究活動の状況」（選択的評価事項A）と「地域貢献活動等の状況」（選択的評価事  
項B）の二つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の求めに応じて、これらの事項に関わる活動状  
況について評価を実施しました。

## 2 評価のスケジュール

機構は、国・公・私立高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、評価方  
法等についての説明会、自己評価書の作成方法等について研修を実施した上で、高等専門学校からの申  
請を受け付け、自己評価書の提出を受けた後、評価を開始しました。

自己評価書提出後の評価は、次のとおり実施しました。

※ 令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教育現場の視察及び学習  
環境の状況調査を含めオンラインで実地調査を実施することとし、高等専門学校機関別認証評価委員会  
において、通常実施している実地調査と同等の調査であることを確認しました。

|      |  |
|------|--|
| 3年7月 | 書面調査の実施  |
| 8月   | 評価部会（注1）の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項の<br>決定）            |
| 9月   | 運営小委員会（注2）の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整）                          |
| 10月  | オンラインによる訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に<br>対象高等専門学校の状況を調査） |
| 12月  | 評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）                                     |
| 4年1月 | 評価委員会（注3）の開催（評価結果（案）の取りまとめ）<br>評価結果（案）を対象高等専門学校に通知       |
| 3月   | 評価委員会の開催（評価結果の確定）  |

（注1）評価部会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会評価部会

（注2）運営小委員会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

（注3）評価委員会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会

## 3 高等専門学校機関別認証評価委員会委員及び専門委員（令和4年3月現在）

## (1) 高等専門学校機関別認証評価委員会

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 阿部 徹    | 岩手県立前沢明峰支援学校教諭／元 盛岡工業高等学校長       |
| 荒井 幸代   | 千葉大学教授                           |
| 荒金 善裕   | 元 東京都立産業技術高等専門学校長                |
| 有信 睦弘   | 広島県立叡啓大学長                        |
| 大島 まり   | 東京大学教授                           |
| 萱島 信子   | JICA 緒方貞子平和開発研究所顧問               |
| ○京谷 美代子 | 元 株式会社FUJITSU ユニバーシティエグゼクティブプランナ |
| 黒田 孝春   | 長岡技術科学大学特任教授                     |
| 田中 英一   | 名古屋大学名誉教授                        |
| 永澤 茂    | 長岡技術科学大学教授                       |
| 新田 保次   | 元 鈴鹿工業高等専門学校長                    |
| 飛原 英治   | 大学改革支援・学位授与機構特任教授                |
| 福富 洋志   | 放送大学特任教授・神奈川学習センター所長／横浜国立大学名誉教授  |
| ◎武藤 睦治  | 長岡技術科学大学名誉教授                     |
| 村田 圭治   | 近畿大学工業高等専門学校長                    |
| 森野 数博   | 前 呉工業高等専門学校長                     |
| 山口 周    | 大学改革支援・学位授与機構特任教授                |
| 山本 進一   | 豊橋技術科学大学理事・副学長                   |
| 和田 安弘   | 長岡技術科学大学理事・副学長                   |

※ ◎は委員長、○は副委員長

## (2) 高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 荒井 幸代  | 千葉大学教授                          |
| 田中 英一  | 名古屋大学名誉教授                       |
| ◎飛原 英治 | 大学改革支援・学位授与機構特任教授               |
| 福富 洋志  | 放送大学特任教授・神奈川学習センター所長／横浜国立大学名誉教授 |
| ○森野 数博 | 前 呉工業高等専門学校長                    |

※ ◎は主査、○は副主査

(3) 高等専門学校機関別認証評価委員会評価部会

(第1部会)

|          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| 青 山 晶 子  | 富山高等専門学校教授                      |
| 佐 藤 一 志  | 仙台高等専門学校教授                      |
| ◎田 中 英 一 | 名古屋大学名誉教授                       |
| 中 井 優 一  | 明石工業高等専門学校教授                    |
| 中 野 正 勝  | 東京都立産業技術高等専門学校教授                |
| 榆 井 雅 巳  | 長野工業高等専門学校教授                    |
| 飛 原 英 治  | 大学改革支援・学位授与機構特任教授               |
| ○福 富 洋 志 | 放送大学特任教授・神奈川学習センター所長／横浜国立大学名誉教授 |
| 南 将 人    | 八戸工業高等専門学校教授                    |
| 向 谷 光 彦  | 香川高等専門学校教授                      |
| 米 田 知 晃  | 福井工業高等専門学校教授                    |

※ ◎は部会長、○は副部会長

(第2部会)

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 朝 倉 和    | 広島商船高等専門学校教授      |
| ○荒 井 幸 代 | 千葉大学教授            |
| 伊 東 昌 章  | 沖縄工業高等専門学校教授      |
| 大 庭 勝 久  | 沼津工業高等専門学校教授      |
| 岡 本 修    | 茨城工業高等専門学校教授      |
| 長 岡 史 郎  | 香川高等専門学校教授        |
| 中 村 格    | 鹿児島工業高等専門学校教授     |
| 飛 原 英 治  | 大学改革支援・学位授与機構特任教授 |
| ◎森 野 数 博 | 前 呉工業高等専門学校長      |
| 湯 治 準一郎  | 熊本高等専門学校教授        |
| 米 光 裕    | 和歌山工業高等専門学校教授     |

※ ◎は部会長、○は副部会長

## 4 本評価報告書の内容

### (1) 「Ⅰ 選択的評価事項に係る評価結果」

「Ⅰ 選択的評価事項に係る評価結果」では、選択的評価事項A及び選択的評価事項Bについて、対象高等専門学校（以下「対象校」という。）が自ら定めた各評価事項に関する目的の達成状況について記述しています。

また、その目的に照らして、「優れた点」、「改善を要する点」がある場合には、それらの中から主なものを抽出し、上記結果と併せて記述しています。

### (2) 「Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価」

「Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価」では、対象校が自ら定めた各評価事項に関する目的の達成状況等を以下の4段階で示す「評価結果」及び、その「評価結果の根拠・理由」を記述しています。加えて、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として記述しています。

<選択的評価事項の評価結果を示す記述>

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている。
- ・ 目的の達成状況が良好である。
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である。
- ・ 目的の達成状況が不十分である。

(※ 評価結果の確定前に対象校に通知した評価結果（案）の内容等に対し、意見の申立てがあった場合には、「Ⅲ 意見の申立て及びその対応」として、当該申立ての内容を転載するとともに、その対応を記述することとしています。)

### (3) 「参考」

「参考」では、対象校から提出された自己評価書に記載されている「i 現況及び特徴」、「ii 目的」を転載しています。

## 5 本評価報告書の公表

本報告書は、対象校及びその設置者に提供します。また、対象校全ての評価結果を取りまとめ、「令和3年度選択的評価事項に係る評価実施結果報告」として、ウェブサイト (<https://www.niad.ac.jp/>) への掲載等により、広く社会に公表します。

その際、自己評価書（根拠として提出された資料・データ等を含む。）も併せて公表し、その書面調査で確認できなかったものの、訪問調査において確認ができた内容については、本評価報告書の該当箇所後ろにアスタリスク\*を付しています（一文の全体の場合は句点の後ろ）。

## I 選択的評価事項に係る評価結果

神戸市立工業高等専門学校は、大学改革支援・学位授与機構が定める「選択的評価事項A 研究活動の状況」において、目的の達成状況がおおむね良好である。

当該選択的評価事項Aにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 神戸市の設置する高等専門学校として、神戸市の各局との共同研究を令和2年度より開始しており、新規の取組であるものの、着実に進展している。

神戸市立工業高等専門学校は、大学改革支援・学位授与機構が定める「選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況」において、目的の達成状況が良好である。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 神戸市の主要な団体が参画する産金学官技術フォーラムを、30年継続して実施するなど、地域連携を積極的に実施している。

## Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価

|   |
|---|
| 選択的評価事項A 研究活動の状況  |
| <p>評価の視点</p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>  |
| <p>観点</p> <p>A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p> <p>A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p> <p>A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p> |

### 【評価結果】

目的の達成状況がおおむね良好である。

#### (評価結果の根拠・理由)

##### 評価の視点A-1

研究活動に関する目的、基本方針、目標等として、「神戸市立工業高等専門学校の研究の目的」を定めている。

学校が設定した研究活動の目的等を達成するため、研究活動の実施体制として地域協働研究センター、支援体制として事務室を整備し、設備等を含む研究体制として各学科に技術職員を配置\*している。これらの体制の下、研究活動を支援するため、産学官連携に係る取組、公益財団法人新産業創造研究機構のコーディネーターによるアリーステージ活動支援の活用による競争的資金獲得に向けた支援等を実施している。\*

学校が設定した研究活動の目的等に照らして、平成28年度から令和2年度の外部資金の受入実績は、5年間の合計で、科学研究費助成事業145,813千円、受託研究20,302千円\*、共同研究73,528千円\*、奨学寄附金37,534千円\*、研究助成40,095千円\*となっているほか、令和2年度より神戸市各局との共同研究を開始しており、令和2年度は2件(3,300千円)実施\*している。

研究活動等について、問題点を把握し、それを改善に結び付けるための体制を「自己評価委員会規程」、「運営改善会議規程」に基づき整備している。

年度末に各教員が提出する教育研究活動報告書により、研究活動等の実施状況を把握した結果、改善を要しないと判断している。\*

これらのことから、高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況がおおむね良好である。」と判断する。

### 【優れた点】

- 神戸市の設置する高等専門学校として、神戸市の各局との共同研究を令和2年度より開始しており、

新規の取組であるものの、着実に進展している。\*

|   |
|---|
| 選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況   |
| <p>評価の視点</p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>   |
| <p>観点</p> <p>B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p> <p>B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p> <p>B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p> |

## 【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

## (評価結果の根拠・理由)

## 評価の視点B-1

地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等として、「神戸市立工業高等専門学校の地域貢献の目的」を定めている。

地域貢献活動等の目的等に照らして、地域協働研究センターにおいて、公開講座、産金学官連携イベントの実施計画を策定するなど、地域貢献活動等の方針を策定している。\*

この方針に基づき、令和元年度は公開講座9件、神戸高専産金学官技術フォーラム、神戸高専企業展示会等を実施している。\*

地域貢献活動等の実績や活動参加者の満足度等については、令和3年度に実施した夏期公開講座（3Dプリンタ・ロボットハンド）のアンケートにおいて、「また参加したい」と回答した者の割合は100%となっている。\*

地域貢献活動等について、問題点を把握し、それを改善に結び付けるための体制を「神戸市立工業高等専門学校地域協働研究センター規程」に基づき整備している。

地域協働研究センター会議にて、アンケート結果等を検証した結果、改善を要しないと判断している。

これらのことから、高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

## 【優れた点】

- 神戸市の主要な団体が参画する産金学官技術フォーラムを、30年継続して実施するなど、地域連携を積極的に実施している。\*

<参 考>

## i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

## 1 現況

(1) 高等専門学校名 神戸市立工業高等専門学校

(2) 所在地 〒651-2194 兵庫県神戸市西区学園東町8-3

(3) 学科等の構成

準学士課程： 機械工学科、電気工学科、電子工学科、応用化学科、都市工学科

専攻科課程： 機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、応用化学専攻、都市工学専攻

(4) 認証評価以外の第三者評価等の状況

特例適用専攻科

(専攻名：機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、応用化学専攻、都市工学専攻)

J A B E E 認定プログラム

(専攻名：都市工学専攻)

(5) 学生数及び教員数（令和3年5月1日現在）

学生数：1257人

教員数：専任教員96人

助手数：0人

## 2 特徴

## 【沿革】

神戸市立工業高等専門学校（以下本校という。）は、昭和38年4月に「神戸市立六甲工業高等専門学校」として設置され、昭和41年4月に校名を現在の「神戸市立工業高等専門学校」に変更した。開校当時は機械工学科（2クラス）、電気工学科（2クラス）、工業化学科、土木工学科の4学科6クラス体制であったが、時代の要請の応えるべく、昭和63年4月に「電子工学科」を新設（電気工学科から分科）、平成2年4月に「工業化学科」を「応用化学科」に科名変更、機械工学科に「設計システムコース」と「システム制御コース」の2コース制（3年次から）を導入、平成6年4月に「土木工学科」を「都市工学科」に科名変更した。令和2年4月に機械工学科の2つのコースを「ロボティクス・デザインコース」と「エネルギー・システムコース」の2コース制（4年次から）に改編した。また、平成10年4月に電気電子工学専攻、応用化学専攻を有する専攻科が設置され、平成12年4月に専攻科に機械システム工学専攻、都市工学専攻が追加され、現在の4専攻体制となった。

## 【教育体制】

本校では、1学科コース制や1専攻コース制ではなく、準学士課程の各学科の上にそれぞれの専攻が設置される編成としており、それぞれの学科・専攻の特色を明確にすることで、準学士課程の早期技術者教育と専攻科課程における開発型技術者教育の効果をより引き出せる学科・専攻体制としているところが特徴である。

本校は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与する」ことを使命とし、各学科・専攻の目的に沿って準学士課程では実践的技術者教育を、専攻科課程では準学士課程で培った知識・教養をもとに開発型技術者教育を提供する体制となっている。また、学科・専攻の横断的な教育体制として以下のような教育

プログラム等を提供している。

#### ○成長産業技術者教育プログラム

神戸創生戦略・神戸 2020 ビジョンで掲げられている戦略産業の中の「航空・宇宙」、「医療・福祉」、「ロボット」の3つの分野の担い手となる技術者を育成するため、平成 29 年度より 3つの分野に関する成長産業技術者教育プログラムを設置した。対象学科は、機械工学科、電気工学科、電子工学科の3年生から5年生までの3年間の教育プログラムとなっており、所属する学科の専門知識に加え、各分野の素養を身に着けた実践的技術者の育成を行っている。

#### ○防災・減災入門

平成 7 年 1 月の阪神淡路大震災の被災地にある本校だからこそ、今後起こりうるであろう災害等に対する的確に対処できる基礎知識を身につけた技術者を育成することを目的として、全学科の1年生から3年生の3年間の特別活動（30 単位時間以上）として「防災・減災入門」を実施している。防災・減災に関する講義、震災関連の施設見学、救急救命士資格取得などを行い、防災・減災に関する知識と意識を持った技術者の育成を行っている。

#### ○単位互換講座

神戸研究学園都市大学交流推進協議会に加盟する 5 大学 1 高専で単位互換講座を実施している。本校の専攻科生が他大学の授業科目を履修し、取得した単位を本校専攻科の単位として認定するようにしており、分野の異なる科目の履修をすることで幅広い教養を身につけた技術者の育成を行っている。

（加盟大学：兵庫県立大学、神戸市外国語大学、神戸市看護大学、神戸芸術工科大学、流通科学大学）

#### 【教育課程】

本校では、正課教育と正課外教育によって、実践的技術者の育成を行っている。

正課教育は、低学年では一般教養科目が多く、高学年では専門科目が多くなるくさび形のカリキュラム編成となっており、基礎学力と専門知識の向上を図っている。また、実験実習を重視しており、少人数の実施により実践的な技術の習得ができるようにしている。

正課外教育では、学校行事および課外活動等を通じて、協調性やコミュニケーション能力の養成ならびに組織・チームにおける団体活動や共同作業の経験を積ませるようにしている。本校の運動部の活動は活発で、平成 30 年に（社）全国高等専門学校体育協会と（一社）全国高等専門学校連合会が発行された「高専体育大会五十年の歩み」の中で各高専の全国体育大会での成績をポイント化して集計した結果が発表されており、本校は全国 1 位となっている。

## ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

#### 【目的】

神戸市立工業高等専門学校は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

（神戸市立工業高等専門学校学則 第 1 条）

**【教育方針】**

- 人間性豊かな教育
  - 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育
  - 国際性を育てる教育
- (神戸市立工業高等専門学校 学生便覧)

**【養成すべき人材像】**

○準学士課程

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ、国際性と問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

○専攻科課程

専門分野の知識・能力を持つとともに他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

(神戸市立工業高等専門学校 学生便覧)

**【学習・教育目標】**

- A：工学に関する基礎知識を身につける
- B：コミュニケーションの基礎的能力を身につける
- C：複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける
- D：地球的視点と技術者倫理を身につける

(具体的な目標等については、学生便覧や本校 web ページに掲載)